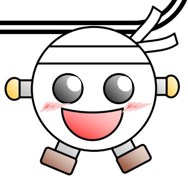
学校だより

令和４年５月 31 日

６月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「温かいかかわりの中で人は育つ」

副校長　山田　太一

学校は、何のためにあるのだろうと考えてみました。「学力を伸ばすため」と考える方も多いことでしょう。もちろんそれに加えて、「最後までやり遂げる力」や「目標を達成するために頑張る力」「リーダーシップや協調性」を育てるためとも考えられます。テスト等で数値化できる学力は、一般的には「認知能力」と言われています。逆に数値ではなかなか表せない力、内面的な能力については、「非認知能力」と呼ばれています。この「非認知能力」は、1960 年代にシカゴ大学のジェームズ・ヘックマン教授らが「ペリー就学前プロジェクト」として研究したことがきっかけで注目を集めるようになりました。「非認知能力」が伸びると、子どもが成長するにつれて学力が高まる傾向が見られ、より安定した社会生活を送り、その後の人生を豊かに過ごすことにつながるそうです。

「非認知能力」とは　　出所：中室牧子（2015）「『学び』の経済学」

意　　欲・・・やる気がある、意欲的である
忍　耐　力・・・忍耐強い、粘り強い、根気がある、気概
自　制　心・・・意志力が強い、精神力が強い、自制心がある
メタ認知・・・理解度を把握する、自分の状況を把握
社会的適正・・・リーダーシップ、社会性がある
回　復　力・・・すぐに立ち直る
創　造　性・・・創造性に富む、工夫する

「認知能力」のように一人でも高めることができるものと違って、「非認知能力」は、他者との豊かなかかわりの中で子ども自身が自ら獲得するものが多いと言えます。たくさんの友達や大人とふれ合う機会の多い学校生活の意義はとても大きいと感じます。子どもたちは、友達とのかかわりの中で、他者の考えを取り入れたり、協働して何かを創り上げたり、合意形成を図ったりしながら日々生活しています。失敗をしても受け入れてくれる仲間がいることで、諦めずに挑戦しようとする意欲も湧いてきます。

さて、子どもたちのために我々大人に何ができるのでしょうか。「失敗しても大丈夫」と子どもが安心して自ら成長できる環境をつくってあげることやありのままの姿を受け入れてあげることで、子どもは自分の力を発揮することにつながるはずです。子どもの好奇心を尊重すること、努力や頑張っている姿を認めること、愛情をもって子どもに接し、寄り添い共感しながら自信がもてるようにすること等、これまで以上に大切にしていきたいと考えています。ご家庭や地域の中での温かいかかわりも欠かせないものです。引き続き、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。